

Rehast ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第204号

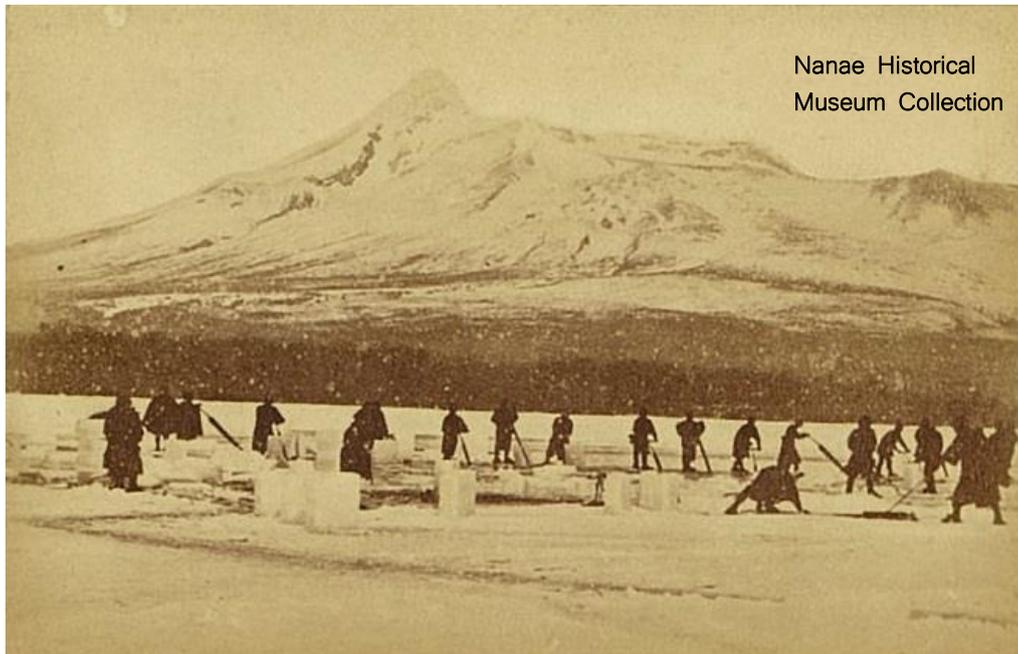
ななえ古写真物語 VOL.204

氷は海を越えて

大沼伐氷風景

明治後半か

大沼地区



駒ヶ岳を背後に、凍る湖の上で氷切りに従事する人々。かつては冬の風物詩だったろう光景も、もはや見ることがない風景となった。

昭和46年1月11日に発行された「大沼通信第十三号」には、(1月)10日に始まった氷切りは、朝の8時から午後3時まで行い、中休みをいく日かおいて、前後1週間位行われると記されているが、氷切りが盛んだった大正後半から昭和初期には、午前3時~8時の最も冷える時間帯に行っていたという。

前もって湖面の氷の上の雪をはき、罫引きというソリのような道具で、氷上に1尺9寸(約57cm)幅のスジを碁盤の目のように入れ、その後、全長5尺7寸(175cm)の大きなのこぎりで切ったそうだ。切り方は木材を切る時とは反対で、押すときに切れるようになっていた。この罫引きと氷切り鋸は、当館の常設展示室で見ることができる。

かつて、大沼の氷切りの歴史を記したことがあったが、その後の調査で、明治36年に大野村(現在の北斗市)の中村長八郎が、天然氷の採取に着手したのが始まりで、その後宇喜多秀夫や海藤一郎(明治42年開始)に引き継がれ、最盛期には氷倉(氷室)が、大沼駅周辺に6棟、大沼公園駅側に1棟あったが、戦後には4棟が解体され、昭和29年の台風15号(洞爺丸台風)の襲来によって倒壊したそうだ。

ほかにも、明治40年に発行された「植民公報 第36号」に大沼凍氷成績について「大沼凍氷は夙に有望事業の一に数えられ一二の者其の採取を試みし事なきにあらざりしも何れも豫期の結果を得ずして不成功に終わり爾後去る三十六年中現営業車か試みに其の製法並に採取法を函館氷の方法に則りたるに及んで果然好成績を示し・・・(中略)」とあることから、中村長八郎が事業を始める前にも、大沼において氷切りが試みられたが、成績が悪く続かなかつたと読み取れる。よって、氷切りの事始めは依然不明だが、事業化においては明治36年以降と考えることができる。

話は変わるが、2年ほど前に当館へメールの問い合わせがあった。その内容というのが、福岡にある河合製氷冷蔵株式会社で保管している氷切り作業の古写真が、大沼で行われたものではないか?というものであった。送信された画像を持って現地での該当箇所を踏査し、おそらく小沼で撮影されたものであると回答したのだが、この会社では函館港から船で九州まで氷を運び、さらにその氷を海外へ輸出していたという情報を得た。これまで、函館や森町へ輸送していた位しか思っていなかった大沼の氷が九州を経て世界へ輸出されていたのである。

こういった情報が、遠隔地からでも早く共有できる時代の進歩に驚くばかりである。

1月の予定

23日 ジュニア探検クラブ

今月は土偶をつくるプログラム。まずは土偶とは？から始まる授業からスタートです。常設展示室に行き、七飯で出土した土偶に触れます。首から下がらないものや、表と裏で模様がちがうもの、上から見たり、下からみたり。ものづくりには、観察することが大切。全国で出土した土偶の写真や関係する図書も見て、皆の想像力をかきたてる勉強をしました。制作のルールは、手足をつける、目・鼻・口をつける。さて、粘土を捏ねて成形するのに難儀する子どもたちの出来栄は・・・。ロビーにて展示をしていますので、ぜひご覧下さい。



24日 ギャラリートーク

企画展示「描くをくらしに」の展示監修を行って頂いた道立函館美術館学芸員の大下氏を招き、ギャラリートークを行いました。ひとつひとつ解説を聞きながら、ていねいに見ていくと、より、展示物との対話が広がるような気がします。油絵のざらざらとした質感や、俳画のさらとした可笑しみのあるリラックスした絵、民俗学的観点から見た赤い馬の絵など、知識を重ねるうちに、何を表し、何を感しているか、という境地にも出会うことができました。



企画展示を振り返って

今回の展示では、駒ヶ岳を描いた絵画を展示したことに伴い、大沼公園側や森町、鹿部町方面などから見た駒ヶ岳のぬり絵を用意し、来館した方に自由に塗ってもらう体験を行いました。見える形も様々なら、色の塗りかたも個性いろいろ。94の駒ヶ岳が壁を彩りました。秀逸だったのは、下絵を90度回転させてサナギに見立てた駒ヶ岳。また絵のタイトルをあてってもらう企画では、多くの方にご参加頂きました。本当にありがとうございました。



| | | |
|----|---|---------------|
| 1 | 水 | 年末年始休館日 |
| 2 | 木 | |
| 3 | 金 | |
| 4 | 土 | ロビー展「これも土偶!？」 |
| 5 | 日 | |
| 6 | 月 | 休館日 |
| 7 | 火 | |
| 8 | 水 | |
| 9 | 木 | |
| 10 | 金 | |
| 11 | 土 | |
| 12 | 日 | |
| 13 | 月 | 成人の日 |
| 14 | 火 | 休館日 |
| 15 | 水 | |
| 16 | 木 | 夜の博物館 第2夜 |
| 17 | 金 | |
| 18 | 土 | |
| 19 | 日 | |
| 20 | 月 | 休館日 |
| 21 | 火 | ピチャリ第205号発行 |
| 22 | 水 | |
| 23 | 木 | |
| 24 | 金 | |
| 25 | 土 | ジュニア探検クラブ |
| 26 | 日 | |
| 27 | 月 | 休館日 |
| 28 | 火 | |
| 29 | 水 | |
| 30 | 木 | |
| 31 | 金 | |

※休館日：1~3日、6日、14日、20日、27日

ツマゴ

冬の作業には欠かせなかった廢物。踵を固定する紐や保温性を高めるために毛布の端切れを巻いたといひます。



編集後記 ~tawagoto~

詩人の谷川俊太郎が、今は意味偏重の時代で、なんにでも意味をもちたがる、どんな意味があるのか？とすぐに聞きたがることを疑問視していた。しばし考え、確かにそんな場面に出くわすこともあると思った。例えばそれは見学の小学生。昔の知恵を説明すると「時間がもったいない、買えばいいのに」と言う。もやもやとしながら、思いついたのは、自然の中で思慮深く過ごすことの重要性を伝えた、ソロの本を年末に読んでみるということだった。

Pichari ~ピチャリ~

第204号

令和6年12月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp